

能代市農山村地域再生可能エネルギー共生協議会第二回会議

日時 令和2年6月25日(木) 10:00~11:00

場所 プラザ都 3階

会議概要

1. 開会

2. 案件

(1) 作業部会での協議概要及び農業振興に資する取組について

事務局より、下記資料により作業部会での検討状況を説明。

- ・資料1：作業部会の開催状況
- ・資料2：事業者提案一覧
- ・資料3：農業振興施策の検討状況一覧
- ・資料4：作業部会等での検討概要説明資料

<質疑>

秋田銀行：中山	資料2、事業者からの提案資料に、農家に対するアンケート実施とあるが、行ったのか。
事務局	実施していない。
白神ウインド：大森	資料2は、事業者からのアイデアであり、その中から選択しなければならない訳ではない。作業部会ではあまりアンケートについて議論は深まらなかった。本協議会で検討する地域貢献とは別枠で、現在、市民に還元できるような取り組みについて検討中。水道料金への還元等考えているが、出来るかどうか分からず、それ以外の何かも含めて考えている。参考までにお知らせする。
座長	事業の実施が4年後となると、農業を取り巻く環境もいろいろ変わってくるのでは。長期的な視点を持って考えるべきかと思う。農業産出額を増やしていくような、新たな取り組みが必要。
	自動水門について、大潟村で実験が行われた。農家の負担は少なくなるが、収量が変わったとの話は出ていない。また、水田の水量調整は経験によるところが大きく、データが集まってくれば自動で出来るかもしれないが、どのレベルにあるか疑問。価格も高いかと思う。
秋田県：大山	オブザーバーとして情報提供する。湯沢市で運用しているバッテリー内蔵、ソーラー設置型の自動水門は、クラウドで管理され、スマホで操作できる。農業者の評価としては良い。価格は、30万円/基ほど。1圃場あたりだと高いか。

能代市長	冬期間の農業が大きな課題のひとつ。冬期間の農業所得が向上することが出来れば、農業の活性化につながる。現在能代では、アスパラ、山ウドを栽培されているが、保温が必要。例えば、事業者からビニールハウスを作ってもらい、必要な電気を、事業者から直接または間接的に供給することも考えられる。これらは、事業の規模や電気量などを整理したうえで議論する必要があると考えている。
白神ウインド：大森	情報提供だが、発泡スチロール型のハウスがあり、それだとランニングコストが非常に安くできるというものがある。具体的な情報は後ほど提供させていただく。
座長	西日本のハウスは倒壊しにくいと聞いている。なぜなら、台風がくることを想定して建設しているから。しかし、近年それでも倒壊するとの情報がある。ハウスの議論をするうえでは、その耐久性も含めて考えるべき。

(2) 基本計画（素案）について

事務局より、基本計画（素案）を説明。

- ・ 農業振興に資する取り組みは協議会で話がまとまった後に記載。
- ・ 事業実施区域は、策定時に詳細を記載することになる。
- ・ その他の各項目の記載内容は、御意見を聞きながら、修正していく。

<意見>

座長	農業振興に資する取り組みを検討するうえでは、その効果を想定しなければならぬと考える。具体的な取り組みが記されるのは、事業者が提出する設備整備計画になると思うが、基本計画においても、どのような効果を得られるか考えながら策定する必要がある。
----	--

3. その他

事務局より、作業部会について、日程調整等のうえ開催日をお知らせすること等を説明。